



世界農業遺産
「清流長良川の鮎」
認定10周年記念事業

研修でつながり、交流でひろがる

研修システムを利用した
地域間交流への発展

企画の趣旨

現在のあゆパーク

- 交通の便に乏しい
- 来場者の満足度は比較的高い

目的はどうあれ若者をあゆパークに来場させたい

一方で、**とにかく参加してもらうことが大切！**

鮎を利用した新たな集客方法は知識不足

新施設、ツアーも参加動機に乏しい

広告等を利用した誘致は持続性がない

企画内容（農業遺産への学生の新たな研修プログラム）

- ・ターゲット：県内の高校生・大学生

【参加の動機をつくる！】

- ・ゼミや集中講義の一環
- ・研修参加者には単位の認定、ガクチ力の材料となる
- ・あゆパークの若者利用を促進するための初段階として県内の学生を世界農業遺産に派遣
- ・第二段階として世界農業遺産のある県の相互間交流へと発展させ、最終的に両県での観光者数の増加を目指す

企画内容（農業遺産への学生の新たな研修プログラム）

学生側：

単位をもらうことができ、地方創生にかかわることで就職や大学入試の面接などで有利になる。

県・あゆパーク側：

若者の意見を聞く機会を得ることができる。
あゆパークに来場するきっかけとなる。
世界農業遺産に興味を持ってもらうきっかけとなり、保全につながる。
メディアなどに取り上げてもらうことで、認知が広がる。
他県へのPRを研修という形で広告費を抑えて行える

具体例

岐阜県と静岡県の大学生(両県とも世界農業遺産を所有)

各教育機関での地域内の派遣を通じて地域創生及び農業遺産についての知識を蓄え、両県間での交流、プレゼンの発表などを行う。

ノウハウをお互いに得て、両地域間でのパイプを形成
→Go to トラベルのような観光支援など

成果

- 研修の中であゆパークを利用することで、若者にあゆパークの存在を知ってもらい、利用促進する
- 研修への参加を通して、世界農業遺産や「清流長良川の鮎」への興味・関心が高まる
- 地域間交流を行うことで、他地域と連携して世界農業遺産の保全をおこなうことができる